

### e) 礫質

サンプル中の長径2cm以上の礫質を調べた結果、大部分が石英斑岩、石英閃緑岩、流紋岩、花崗斑岩で、那須火山の岩質である安山岩系統の礫は全く含まれていなかった。このことから、表層地質を構成する礫質の部分は、大佐飛山附近の基底岩質と同じであって、この地域を侵蝕流下した那須川の礫搬送積礫であるといえる。

## 製糸業の研究

—岡谷市について—

植 崎 光 子

岡谷市における製糸業の戦中、戦後の実態調査報告である。製糸業は、第一次大戦後の恐慌以来のびなやみを続け、昭和恐慌をへて組織化が進められ、戦時中の経済の軍需化の中で不用な平和産業として、急激に縮小されていくのであるが、その中で資本主義の一般法則通り、中小資本から整理され、戦時中には、統制法の擁護の下に、大資本の独占的支配が行われ、戦後は、製糸業の不振の中で、その支配はほぼ持続される状態で製糸業全体は縮小傾向にあるのであるが、その向に、戦時中強制的に製糸業の権利をとりあげられた中小業者達は相当の立ち直りをみせ、製糸業において、いろいろな意味で問題をなげかけている。この点において岡谷市に特に着しい。そこでこの問題を考えるために、戦時中、戦後の岡谷市の製糸業の変化をみようとした。

しかし、この調査報告は、そのうちのほんの一部で、特に戦時中の恐慌の過程を中心とした資料をならべてみたにすぎない。特に戦後の中小業者の立ち直りの過程については、非常に不十分で、この調査報告の中から、何らかのまとまった結論をひき出すことは未だ困難である。

しかしながら、これだけの不十分な調査の中からさえ云えることは、戦争の過程の中でいかに至済構造がかえられていたか、すなわち戦争というものはいかに産業の独占化をすすめるものであるかということである。それと同時に現在のこの至済機構の発展に関しての見通しのない中で、戦后新に出て来た中小企業はいったいどの様な変化の仕方をするのであろうかということが大きな問題として残る。